

石油ノ消費
規正

揮發油及重油販賣取締規則ヲ制定シ講
買券制度ノ採用ニ依リ本年度推定需要
量ニ對シ揮發油ニ付テハ約二割、重油
ニ付テハ約一割五分ノ消費規正ヲ行ハ
ントス

二六、八三三
外ニ内務省所
管ノ分
三、一九二、〇九八

國內石油資
源開發促進

國內油田ノ開發ヲ促進スル爲石油資源
開發法ヲ制定シ助成率ノ引上、試掘命
令等積極的ニ油田ノ開發ヲ圖ル一方鑽
利保護ヲ目的トスル監督ヲモ併セ行フ
コトトセリ

一、〇一六、八六九
外ニ既定經費
七、二三一、一五〇

海外石油資
源開發促進

海外ニ於ケル石油供給源確保ヲ要スル
爲右目的ヲ以テ事業ヲ爲ス協和鑛業株
式會社ノ石油資調調査ニ對シテ助成ス
ルコトトセリ

一四六、五〇〇

昭和十三年

五月一日

瓦斯發生爐
設置及普及
施設費補助

自動車等ニ瓦斯發生爐ヲ設置スル者竝
ニ其ノ使用普及施設ヲ爲ス者ニ對シ助
成セントス

三〇二、〇〇〇
外ニ既定經費
六六、五〇〇圓

人造石油製
造事業ノ振
興

帝國燃料興業株式會社ノ活動ト相俟チ
人造石油事業ノ確立ヲ圖リ且本年度ニ
於テ差當リ製品ノ生産ヲ見ル低溫乾溜
事業ニ對シ人造石油製造事業法ニ依リ
助成金ヲ交付ス

低溫乾溜事業費
補助
一〇四、一三〇圓

外ニ既定經費
三三八、五二〇圓

帝國燃料興業株
式會社出資拂込
金

五〇〇、〇〇〇圓
同配當補給金
二七二、五五六圓

既ニ實施中

液體燃料ニ
關スル諸種
ノ試験研究

液體燃料自給促進ノ見地ヨリ燃料研究
所ニ於テ人造石油ノ綜合的製造方法ノ
工業化試験、代用重油製造ノ中間工業
試験、炭粉チーゼル機關ノ實用化試験
等ヲ行ハントス

四三三、五〇五圓

本年十月ヨリ
逐次着手スル
モノトス

北樺太石油
株式會社事
業助成

北樺太石油株式會社ノ利權地域ノ開發
ニ必要ナル資金ヲ調達セシムル爲發行
社債ニ對スル元利支拂保證額ヲ増額シ
試験ヲ促進スルコトトセリ

保證額

(豫算外契約)
五、〇〇〇、〇〇〇

對日經濟壓
迫ニ對スル
對策

(一)外國貿易關係業者ヲ招致セントス
(二)輸出貿易促進ノ爲宣傳ヲ爲サントス
(三)邦商海外商權ノ伸張ヲ圖ラントス

二、五三二、六七八

昭和十三年六
月一日

物資調整局
新設

國防資材ノ供給ヲ確保スルト共ニ重要
物資ノ需給ノ調整ヲ圖リ以テ國民經濟

四八六、九九八

昭和十三年五
月一日

ノ圓滑ナル運營ヲ期センガ爲外局ヲ設
置シ重要物資ノ需給調整ニ關スル具體
的計畫ヲ立案セシメ關係各廳ト協力シ
之ガ實施ニ當ラシメントス

其ノ七 遞信省

一 電力管理法及其ノ關係法令ノ實施

近日中ニ電力管理準備局及電力審議會ヲ設置シ電力管理準備局ニ於テハ日本發送電株式會社ノ成立ニ關スル事務ヲ行ハシメ其ノ重要事項ニ付テハ電力審議會ニ諮問ノ上決定シ明年四月日本發送電株式會社ヲ成立セシムル豫定ナリ

二 臨時船舶管理法ノ實施

本年度ニ於テモ引續キ本法ノ實施ニ依リ事變下ノ海上ニ於ケル一般交還運輸ノ調整ヲ圖ルモノトス尙本法施行ニ關聯シ特ニ船員ノ養成補助並ニ船員職業紹介事業補助等ニ關シ豫算ノ増額ヲ見タリ

其ノ八 鐵道省

一 建設及改良費關係

鐵道建設費	三三〇〇〇〇〇〇	十三年度 豫算額	七十議會ノ協贊ヲ經タル公布豫算ニ於ケル十三年度既定年割額ニ對スル増減	増減理由
鐵道改良費	一四五〇九〇〇〇〇	四二七〇〇〇〇〇		
鐵道建設費		三三〇〇〇〇〇〇	△一三〇〇〇〇〇〇	國防其ノ他ノ關係上急施ヲ要スル線路ハ年割額ヲ増加シ工事ヲ促進スルモ其ノ他ハ原則トシテ之ヲ減額シ物資勞力ノ需給調整ニ資ス 運輸ノ躍進殊ニ生産力擴充竝ニ軍事輸送ニ對應シ輸送力ヲ充實強化スルニ重點ヲ置キ約五七〇〇万圓ヲ増額シ資材及資金ノ節約ノタメ約一五〇〇万圓ヲ節約セリ 運輸増進殊ニ生産力擴充竝ニ國防上ノ必要
鐵道改良費		一四五〇九〇〇〇〇	四二七〇〇〇〇〇	

(單位 圓)
△印ハ減ヲ示ス

線路増設	軌條更換	橋桁改良	線路改良	停車場改良	廳舎、倉庫等	線路改築費	防空設備費
一五四九三〇〇〇	四〇〇〇〇〇〇	六〇〇〇〇〇	五五〇〇〇〇〇	一三六八二〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇	八〇〇〇〇〇	二五二六〇〇〇
△	△	△	△	△	△	△	△
四二四三〇〇〇	三五〇〇〇〇〇	六五〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇〇	二八七六〇〇〇	一〇〇〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	二五二六〇〇〇
ニ對應シ輸送力強化ノタメ關門連絡線新設 工事ノ豫定年度完成ヲ圖リ、北陸線、山陽 線、筑豊線等ニ於テ線路増設ヲ計畫セリ	鐵材ノ節約	同 右	物資勞力ノ節約ノ爲土木工事ノ急ヲ要セザ ルモノヲ繰延ブ	輸送力充實ヲ目的トスルモノニ力ヲ注ギ單 ニ旅客待遇ニ關スル施設ノ如ク直接輸送力 増強ニ關係ナキモノニ對スル經費ハ之ヲ削 減セリ	倉庫以外ノ廳舎其ノ他建物ハ營繕工事繰延 ノ趣旨ニ依リ極力繰延タリ	石炭増送及國防上ノ必要ニヨリ筑肥線及松 浦線ヲ改築セントス	主要地區ニ對スル統制管制設備ヲ急速施行 セントス

其ノ他	信濃川 水力設備	電気 保安設備	電化設備費	工場費	車輛費
1,130,000	1,101,800	4,771,000	9,200,000	1,705,000	7,270,000
1,111,000	2,528,000	3,671,000	△ 9,860,000	2,700,000	3,858,000
	豫算不足額ヲ追加シ第一期工事ヲ豫定通り來年度冬期迄ニ完成セントス	一般運輸増進並ニ軍事輸送ノ必要上山陽線能力増強ノ爲急速施行セントス	大都市附近電化工事ヲ繰延ベタリ	車輛省内新製及修繕能力増大ノ爲機械増備其ノ他ノ經費一二五万円ヲ増額シ建物其ノ他約五五万円ヲ繰延ベタリ	運輸情勢及時局ニ鑑ミ車輛ノ増備ハ焦眉ノ急ニシテ十二年度追加豫算ニ於テ供出車輛補充ノ爲一三五六四〇〇〇圓ノ追加増額ヲ得タルモ本年度ハ更ニ増額ヲ爲シタリ輸送力ノ充實及外地ヘノ車輛轉出ヲ考フル時ハ未ダ充分ニ非ズ(防空ノ爲ノ車輛改造費ヲ含ム)

二事業費關係

事項	經費	備考
<p>交通統制機關設置</p>	<p>四〇、六六五</p>	<p>交通機關ハ企業心ヲ刺戟シ成ル可ク速ニ普及セシムル要アルモ大都市ニ於テハ既ニ過剩ヲ來シ二重投資ノ弊ヲ見ルニ至レルモノアリ之ヲ適當ニ調整シテ二重投資ノ弊ヲ改メ利用者ノ利便ト事業ノ健全ナル發達トヲ期セントス目下委員會官制施行令及施行規則ヲ立案中ナリ</p>
<p>調査部 擴充</p>	<p>四一五、二八八</p>	<p>昨年度調査部ヲ新設シ總動員計畫ノ設定ニ當ラシメタルガ更ニ擴充セントス</p>

其ノ九 拓務省

第一 本省

資源ノ配當及補填（物資需給調整）

職員增置 事務官 三

屬 三

第二 各外地

事項	地域	一 總動員計畫全般ニ關スル事項	二 資源ノ配當及補填（物資需給調整）
朝鮮	職員存置 道 屬 一三	職員增置 事務官 四 技師 六 屬 二 技手 三	
臺灣		職員增置 事務官 二 技師 三 屬 一 技手 二	
樺太		職員增置 事務官 一 技師 一 屬 三 技手 一	
南洋	職員增置 屬 一	職員增置 事務官 一 屬 一 技手 一	

五 產 業	四 食 糧	三 勞 務 (-)技術者及職 工養成		口 委員會設置	
		(-)勞務者需給 調整	イ 京城帝大ニ理 工學部新設 (豫科一學級增 加)		口 委員會設置
			口 京城高工ニ機 械工學科、電 氣工學科新設 及鑛山學科生 徒定員增員 ハ 機械工及電氣 工養成施設擴 充		
職員增置 一	石炭礦現場係員 養成				
	畜肉加工獎勵				

(一)産金奨励

イ 職員増置 事務官 三 技師 五 屬 一一 技手 一八	ロ 金山道路改修 ハ 鑿岩工養成所 ニ 金山用途電線 路ノ建設 ホ 産金設備ニ對 スル補助 ヘ 日本産金振興 株式會社ノ監 督指導	(二)重要鑛物増 産 イ 重要鑛物増産 法ニ準ジ制令 ヲ制定 ロ 職員増置 事務官 一 技師 一
選鑛製練所建設 補助(ニヶ所)		イ 同上律令ヲ制 定 ロ 職員増置 屬 一 技手 一
		重要鑛物増産法 ヲ施行

<p>(四) 其ノ他ノ資 源</p>	<p>(三) 燃料資源開 發</p>	<p>一 奨 手 四 ハ 探鑛、採鑛、 選鑛設備ノ補 助</p>	<p>イ 石炭液化事業 奨勵 ロ 無水アルコ ル工業助成</p>	<p>亞麻増産補助 (二、二〇〇町歩)</p>
<p>苧麻、蓖麻、 黄麻ノ栽培奨 勵</p>	<p>イ 石油試掘補助 ロ 天然ガスヨリ 合成石油製造 ノ研究、試験 ハ 石油資源開發 法施行</p>	<p>ハ 探鑛設置ニ對 スル補助</p>	<p>イ 炭田調査ノ爲 職員増置 奨手 一 ロ 石油試掘補助 ハ 石油資源開發 法施行 ニ 石炭低溫乾溜 工業補助</p>	

六 運輸、通信	イ 中央線建設ノ 線上 ロ 京城清津間航 空路開設 ハ 清津西港築港 工事線上	七 財政、金融 物價調整及 貯蓄獎勵	職員増置 事務官 二 屬 四三	八 情報宣傳	イ 國民精神總動 員實施 ロ 弘報事務ノ擴 充
イ 彰化、臺南間 屏東、高雄間 複線工事 ロ 內臺連絡航空 路ヲ一日一回 ニ增加 ハ 臺東飛行場設 置	職員増置 屬 一〇	イ 國民精神總動 員實施 ロ 強力無線放送 施設ノ建設線 上 ハ 國語普及ノ爲 國語講習所增 設及職員増置		イ 國民精神總動 員實施 ロ 樺太廳報發行	國民精神總動 員實施
イ バラオ、内地 間定期航空路 施設充實 ロ サイバン港擴 張	職員増置 屬 一				

<p>一〇 其ノ他 (一) 軍事援護事業</p>	<p>九 警備 (一) 防空</p>	
<p>イ 職員増置 屬 一六 ロ 傷痍軍人ノ保護表彰</p>	<p>イ 國境警備充實 ノ爲警察署八 駐在所三増築 ロ 國境警備電話 緊急架設 ハ 國境警備ノ警 察官増員 (四六九人)</p>	<p>イ 防空知識ノ普及、宣傳 ロ 防空事務關係職員増置 ハ 防空諸施設ニ對スル補助</p>
<p>イ 職員増置 屬 六 ロ 一</p>	<p>島内警備ノ爲警察官増員 (七五〇人)</p>	<p>イ 官廳其ノ他防空施設整備 ロ 航空氣象觀測機關整備</p>
<p>イ 職員増置 屬 一 ロ 一</p>	<p>國境警備充實ノ爲警察官増員 (五二人)</p>	

(三)時局對策臨時施設 イ時局對策委員會設置 ロ時局對策資料調査 ハ北支其ノ他ニ駐在職員派遣	(二)氣象觀測施設ノ整備擴充 イ道立測候所ノ國營移管 ロ氣象觀測機關整備新設 ハ氣象通信ノ迅速化	八 職業輔導 二 軍人遺家族扶助 水 軍爭援護相談所設置
	イ氣象觀測機關整備新設 ロ氣象通信網ノ整備	二 八 同上
	イ氣象觀測機關ノ整備擴充 ロ氣象通信網ノ整備 ハ短波無線送信ノ設備開設	二 八 同上
	イ氣象觀測機關ノ整備 ロ氣象實況通報施設整備	

其ノ十 厚生省

一 職業紹介所ノ國營

イ 昭和十三年度中ニ國營職業紹介所ヲ約二〇〇ヶ所開設ノ見込ナリ
豫算 三、六七四、一九九圓

ロ 職業紹介所ノ聯絡統制ヲ圖ル爲本省ニ職業部ヲ新設シ（豫算六一、八七〇圓）地方廳ニ職業課ヲ一七ヶ所新設スルノ外既設ノ職業課及職業係ヲ充實セシム（豫算二〇三、四四〇圓）

二 國民登録制ノ實施準備

前記職業部ニ於テ國民登録制（醫師等ノ登録ヲ除ク）ノ實施準備ヲ爲ス

三 醫師等ノ職業能力申告及其ノ登録

イ 國家總動員法第二十一條ニ基ク勅令及省令ヲ制定シ醫師、齒科醫師、藥劑師、看護婦ノ職業能力申告及其ノ登録ヲ實施スル計畫ナリ
豫算 八二、六五二圓

口 右ニ關シ七月一日ヨリ厚生省及道府縣ニ相當數ノ職員ヲ設置

ス

ハ 登録數ハ醫師五九、七〇六人、齒科醫師二一、〇六七人、藥劑師二六、七三二人、看護婦一一三、九八七人、計二二一、四九二人ノ豫定ナリ

四 軍事援護事業

イ 軍事扶助法施行ニ伴フ軍事扶助事業

豫算 五四、一九四、〇二五圓

ロ 軍人援護事業助成 豫算 一七、〇〇〇、〇〇〇圓

1 軍人援護事業助成 豫算 一〇、〇〇〇、〇〇〇圓

道府縣又ハ道府縣内ノ適當ナル軍事援護團體ヲシテ軍事扶助法ニ依ル扶助ノ及バザル部分ニ對スル援護事業ヲ施行セシメ之ニ對シ助成ヲ行フモノニシテ援護ノ方法、種類、程度ハ援護ヲ受クベキ者ノ狀況ニ應ジ宜シキニ從ヒテ定メシムルモノ

トス

2 召集解除者生業援護事業助成

豫算 七、〇〇〇、〇〇〇圓

道府縣ヲシテ召集解除又ハ除隊トナリタル歸郷軍人ヲシテ速ニ生業ニ復歸セシムル爲ノ援護事業ヲ行ハシメ之ニ對シ助成ヲ行フモノニシテ援護ノ方法ハ應召又ハ入營前ノ生業ニ復歸セシムルヲ本則トシ援護ノ種類ハ生業費ノ給與及生活費ノ補給トス

ハ 軍事援護相談所設置助成

豫算 一、〇〇〇、〇〇〇圓

出征軍人ノ家族並遺族ノ身上及家事全般ニ關スル相談指導ヲ主トスル綜合的軍事援護相談所ヲ道府縣及市區町村ニ設置セシメ之ニ對シ助成ヲ行フモノナリ

ニ 戦歿者遺兒育英事業助成

豫算 七〇、〇〇〇圓

道府縣ヲシテ戰傷病死軍人軍屬ノ遺兒ニシテ學資乏シキ爲中等教育ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シ就學ノ便ヲ與ヘ必要ナル學資ヲ給與セシムル事業ヲ行ハシメ之ニ對シ助成ヲ爲スモノナリ

五 傷痍軍人保護事業

外局トシテ傷兵保護院ヲ設ケ左記ノ傷兵保護對策ヲ實施ス

豫算 三五、三〇六、七二五圓

イ 療養事業

豫算約 二八、四〇〇、〇〇〇圓（除事務費）

1 精神保養所、溫泉保養所、結核療養所ヲ全國適當ナル地ニ

三十數ヶ所建設シ經營ス又必要ノ際ハ之等ノ患者ヲ療養施設

ニ委託シ療養セシム

2 傷痍者ニシテ介護用具（手押車、寢臺等ノ如キモノ）ヲ要

スル者ニ對シテハ之ヲ支給シ又醫療ヲ要スル者ニ對シテハ醫

療ヲ爲ス

口 職業再教育及職業保護事業

豫算約 三、〇〇〇、〇〇〇圓

1 職業再教育所ヲ建設シ直營ス

2 道府縣ニ建設費及經常費ヲ補助シテ職業再訓練所ヲ建設經營セシム

3 既設ノ職業再教育施設ニ補助ヲ爲シ設備ヲ擴張セシメ要再教育者ヲ委託シ又ハ民間會社、工場、學校等ニ委託シテ再教育ヲ行フ

4 民間會社、工場等ニ於テ傷痍軍人ヲ使用スル爲ニ作業設備ヲ改善スル場合ニ補助ヲ爲ス

5 傷痍軍人職業顧問ヲ各府縣廳ニ配置シ職業ノ指導相談ヲ爲シ就職ノ斡旋ヲ爲ス

ハ 其ノ他 豫算約 一、五〇〇、〇〇〇圓

1 道府縣ニ國庫補助ヲ爲シ傷痍軍人ノ子弟及戰死者遺族等ノ

育英助成ヲ行ハシム

2 大日本傷痍軍人會ニ補助ヲ交付シ同會道府縣支部及其ノ分會ニ傷痍軍人身上相談所ヲ設置セシム

3 傷痍軍人保護團體ヲ特設シ之ニ對シ經費ノ補助ヲ爲シ傷痍軍人ノ生業助成事業並國家施設ノ補足的事業ヲ行ハシム

4 傷痍軍人ノ教化指導

5 傷痍軍人ニ關スル一般國民ノ指導教化

六 花柳病ノ豫防

イ 軍隊ト關係深キ重要地ニ於テ業態上花柳病傳播ノ虞アル職業ニ従事スル者ノ檢診治療ノ徹底ヲ期スル爲市其ノ他ノ公共團體ニ診療所ノ設置ヲ命ジ之ニ對シ助成ヲ爲サントス

豫算 三四三、六五四圓

ロ 應召軍人ニシテ除隊ノ際將來花柳病再發ノ虞アル者ハ軍當局ニ於テ居住地市町村長ニ對シ之ヲ通知シ無料ニテ完全ニ治療セ

シム

豫算 二〇〇、〇〇〇圓